

殺人事件の前日譚から  
登場人物の内面を読み解く



PS3 AVG

8月22日発売

DISORDER6

●5pb.  
●¥7,140(税込)、限定版¥9,240(税込)

連載小説第2回は、族のリーダーだった頃のヒナコのエピソードを公開。新キャラクター・ジンナイとの関係にも注目だ。

物語を深める連載小説と  
魅力あふれる新キャラを掲載!

手錠でつながれた記憶喪失の少年少女、ジョーとシーナが逃亡劇を繰り広げるサスペンスAVG。オリジナル小説とともに、闇医者ジンナイや怪しい雰囲気キューティールといった新たな登場人物を紹介しよう。

DISORDER6  
SHORT  
STORY

連載企画 第2回

「風が止む日」*About Hinako*

TEXT BY 六花梨花

「ほら、終わり」

消毒薬の匂いが充満している、白くて古い診察室。絆創膏の貼り終えられた拳を、べしんと叩かれる。

「いてっ」

あたいの声に、ジンナイ先生は笑いながら、コーヒーの入ったマグカップの縁に唇をつけた。

「ごめん、先生。今回も世話かけちゃったね」

「ヒナコ含め、四十二人か……まあ、なかなか派手な喧嘩だったようだな」

「で、その……」

「浚われていた女の子は無事だったよ。ケガも軽いすり傷と打ち身だけだ。大したことはない」

先生の言う「無事」の意味を察して、ほっとする。

まだ、エグゾーストノイズの大輪唱と、雄叫びが耳の底に残っているのを感じながら、反芻する。

今日のカチコミ相手は、うちのチーム「クリムゾン・ゲイル」とシマが隣接している『マッドZブラック』。

そこのリーダーが、うちのメンバーのジローの妹、

ショウコを浚ったんで、取り返しに行った。

うちが百五十人。向こうもそれくらい。大乱闘だ。周辺住人や通行人の被害はゼロ。ヤスが現場仕切って、被害が出ないようにしてくれたおかげだ。

タツが特攻して道を開く。ルミがショウコを見つけて、保護。

雄叫びあげての揉み合いの中、あたいは首謀者のリーダーを捜しながら、1人押し、2人押し……何人がワンパンで浚って、ヤスから聞いた、アジトのポート小屋に入った。

そこにいる。

あたいらの急襲に脅えたリーダーは、電気も点けず、暗闇の隅でナイフ握りしめてガタガタ震えてやがった。こっちが聞いてもないのに次から次に、喚き始める。

人質にするつもりでショウコを浚った。あたいただけ呼び出して、集団でポコった後、ヤクザに売りつけるつもりだった。呼び出す前に来やがってとか……恨み言なのか、懺悔なのか、訳わかんねえこと、ずっと

になっていた。

面倒になったんで、腹に一発入れてやったら、白目剥いてひっくり返りやがった。

気絶しているそいつの身体を、カチコミの輪の中に放り込むと、『マッドZブラック』の奴ら、悲鳴上げて、んでばらばらに逃げ出していた。

そんな状態になってるってのに、まだ暢気に気絶してやるリーダーに水ぶっかけて、無理矢理目を醒まさせる。あたいを中心に百人以上に囲まれてることにびびって、声もあげねえで溝らしやがったんで、記念写真撮ってやった。

写真をバラ撒かれたくなかったら、すぐにチーム解散しろって言ったら、腰抜かしたまま、こくこくこく、ずつと首を縦に振ってやがった。

「あつけねえ……簡単に頭下げるんだったら、つっぱるなっての。ファッションでやってんじやねえよ。ったくよお」

「ああ、今日の喧嘩相手のことか。そんなに弱かったのかい？」

「うちに続く2番目にデカイとこだったけど、超弱くて、話にならなかった。ソッコー、解散させた」「ふむ。ということは、もう……」「そうだよ。この辺りのゾクは、うちだけになっちゃった」「それは寂しくなるな」「寂しい？ これは、そんな感情なのか？」「……違う」

なんか……つまんねえんだ。最初はよかった。ただ、走っているだけで、風を感じているだけで、楽しかった。気がついたら色んな奴が寄ってきて、仲よくなって。喧嘩売られたら、みんなで買って……気がついたら、こいらで一番でかいチームになっていた。集団で走るようになっていた。それが楽しかったんだけど……。[なんでもそうだが、楽しい時間だけとは限らんよ] あたいの心を見透かしたように、ジンナイ先生は穏やかな柔らかな声で言った。

そうだ。楽しくないんだ。なんだか、虚しい気持ちの方が大きくなっているんだ。

凌さわわれちゃったショウコは、普通の子だ。あたいらみたいにツッパってる訳でも、バイク転がしてる訳でもねえ。普通に制服着て学校に通っている、お兄ちゃんが好きな、ただの女の子だ。あたいらに関わってらるだけで、怖い目に遭わせちゃって……。

「ショウコが凌さわわれたのって、あたいらがこんなことしてるせいだよな」「好きでしていることなんだろう？ リスクがあっても自力で克服するんだな」

診察用の椅子に座り、コーヒーを飲みながら新聞を読んでいるジンナイ先生を黙って見つめていると、なんだい？ と、先生が答えてくれた。

「会ったときからだけど、先生は、あたいらのしてること、ぜんぜん怒んねえんだな」

たいていの大人は、暴走族なんかさっさとやめろって言う。今じゃもう、呆おろれてなんにも言わないけど。

だけど、先生は違った。ケガして困っているあたいらを普通に治療してくれた。法外な金を要求されるのかと思っていたら、そんなことはなかった。おまけに、ある時払いの催促なし。大人からそんな扱いを受けたことなんかなかった。だから、あたいら全員、先生に恩義を感じている。

「怒ったからといって、君達は、走ったり、喧嘩したりするのをやめるのか？」

と言われ、うっと口をつくむ。「自分が納得して行いを改めると、納得しないまま模倣するだけでは、まったく意味が違ってくる。答えを出すために思い悩んでいるのであれば口を挟むが、そうでないのなら、そっとしておくよ。無駄なことをする気はない」

たしかにそうだよな。言われたからするのより、したいからするほうが納得して動ける。だけど、あたいらは……。

「道に迷っている気がしているのかもしれませんが、私からすれば、ヒナコの中には、もう行き先が決まっているように感じるか？」

また、言葉にしていなのに、読まれた。ジンナイ先生は、外科、内科問わず、どんな患者でも診る。心療内科も囃なってるらしい。確か、心理学も手を出していたとか言っていたような。そのせいか、あたいらの感情を読み取るくらいお手の物ってわけだ。

「あたいらは……迷ってないのか……？」自分で考えろと笑って、先生は、またコーヒーを口にする。

もし、このままゾクを続けていても、先生は変わらず接してくれるだろう。ケガして訪れるあたいら達の面倒もいやがらずに見てくれると思う。

だけど、こんなこと続けていたら、今日みたいに



### ヒナコ

CV:真田アサミ

ある事件をきっかけに、ジョーとシーナに協力する族(チーム)の元リーダー。族をやめたあともついでくるタツ、ヤス、ルミの3人の舎弟を持ち、地元では顔が知られている。

### NEW!

### ジンナイ

CV:今井麻実

街で診療所を開く闇医者。ヒナコたちからの信頼が厚く、精神疾患にも通じているため、記憶喪失のジョーとシーナを診察する。ヒナコや刑事のコバヤカワとは旧知の仲。

係のない子まで怖い目に遭わせることになっちゃう。それはどうなんだろう。ジンナイ先生に面倒かけ続けるのも……。

なにより、走るのがつまんなくなっちゃまいそうなのが……。

ほうっとため息が出た。「風って、永遠に吹いてる訳じゃねえんだな」

それだけで、先生はあたいらが何を言いたかったか理解してくれた。微笑みながら差し出してくれた、あたい用のマグカップを両手で受け取る。

さて。あいつらに、なんて言えればいいかな……。



▲闇医者ながら、精神医療にも精通するジンナイ。彼女が、ジョーとシーナの2人の記憶を回復させるきっかけとなるのか？



▲ジョーとシーナは、逃亡のすえに闇医者・ジンナイと知り合う。ヒナコのお古からの知り合いで、若く見えるが腕は確かなようだ。

### NEW!

### キューティー

CV:間宮康弘

繁華街で、あやしい雰囲気のみックスバーを営む人物。ヒナコと知り合いのようだが、ジョーたちとのように絡むのか……。

